

会議録

会議の名称	第2回 清須市総合計画審議会
開催日時	平成31年1月29日(火) 午後2時～午後4時
開催場所	清須市役所 南館3階 大会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 清須市第2次総合計画 後期基本計画(骨子案)について (2) 清須市第2次総合計画 後期基本計画の施策の方向性について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 〔会議資料〕 資料1 清須市第2次総合計画 後期基本計画の策定のながれ 資料2 清須市第2次総合計画 後期基本計画(骨子案) 資料3 清須市第2次総合計画 前期基本計画の取組状況について 資料4 市民満足度調査の実施について 資料5 第1回 総合計画審議会における主な意見等 資料6 市民参画会議(第1回)結果報告 資料7 市民参画会議(第2回)結果報告 資料8 市民参画会議(第3回)結果報告
公開・非公開の別(非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数	1人
出席委員	福田委員、水野委員、加藤委員、飯田委員、浅田委員、時田委員、河野委員、渡辺(玲)委員、野田委員(会長)、水谷委員(副会長)、山田委員、齋藤委員、前田委員、高山委員、渡辺(康)委員
欠席委員	堀田委員、後藤委員
出席者(市)	永田市長、葛谷副市長、宮崎企画部長
事務局	〔企画部企画政策課〕 河口企画部次長兼課長、藏城課長補佐、服部課長補佐兼企画政策係長、石附主査、服部主事

1 開会

(河口企画部次長兼企画政策課長)

定刻となりましたので、ただいまから第2回 清須市総合計画審議会を開催いたします。

皆様におかれましては大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

私は、企画政策課長の河口と申します。よろしく申し上げます。

はじめに、事務局から出欠状況のご報告をさせていただきます。

堀田委員、後藤委員におかれましては、所用のため本日ご欠席でございます。

次に、会議の開催に当たりまして、永田市長からごあいさつを申し上げます。

2 市長あいさつ

(永田市長)

改めまして、こんにちは。新たな年、平成 31 年を迎えることとなりましたけれども、今年は正月から大変良い天気が続きまして、委員の皆様方にも清々しい新年をお迎えのことと思います。

そのような中、本日は委員の皆様、本当に大変お忙しいところ、第2回の清須市総合計画審議会にご出席を賜りました。誠にありがとうございます。

今年はよく「平成最後の年」と言われるのですがけれども、一方で5月には新天皇陛下が即位をされまして、元号も新しくなるということで、また新たな時代がやって来る、そんな幕開けの年だというふうにも思っております。

そんな時期に、私どもの第2次総合計画の見直しというタイミングに当たりまして、今後とも引き続き、見直しをされます総合計画に沿って、更に清須市が飛躍するようにこれからも取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本日の審議会では、前回の審議会の議論や市民参画会議などでいただきましたご意見を踏まえまして、事務局から後期基本計画の骨子案を提示させていただいております。持続的なまちの発展を実現するためには、高齢化の進展など、人口に関する問題への適確な対応が重要な政策課題であるとの認識の下に、2020年度から始まります後期基本計画は地方創生の総合戦略と一体的に策定を進めているところでございます。

今回の審議会では、地方創生の実現に向けて設定する3つの基本目標についてご審議をいただくとともに、後期基本計画に盛り込みます37の施策について、前期基本計画の取組状況を踏まえまして、より充実した内容としていくために、それぞれのお立場、視点で活発なご意見、ご議論をいただければと思っております。

よろしくご審議を賜りますようお願いを申し上げます、冒頭のごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 議事(1) 清須市第2次総合計画 後期基本計画（骨子案）について

(河口企画部次長兼企画政策課長)

市長におきましては、他の公務がございますので、ここで退席させていただきますので、よろしくお願い致します。

それでは、ここからの会議の取り回しにつきましては野田会長にお願いしたいと思いますが、その前に1点、事務局から、第2回の審議会からご参加いただくことになりました委員の方々のご紹介をさせていただきます。

第1回の審議会でもご説明させていただきましたが、市長が必要と認める総合計画審議会の第5号委員といたしまして、地方創生の取組に係る意見聴取を行うための、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議から1名、また、公募市民による市民参画会議から1名の方について、第2回の総合計画審議会からご参加いただいております。

まずは、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の高山孝治様でございます。高山様は、司法書士として市内で士業を営んでいる方という立場で推進委員会にご参加いただいております。高山様よろしくお願い致します。

続きまして、市民参画会議代表の渡辺康子様でございます。後期基本計画の策定に当たりましては、地方創生、まち・ひと・しごと創生に向けた取組を推進するため、しごとの創生という観点から、できれば現役世代の方で、市内で事業を営んでいらっしゃる方のご意見をお聞きしていきたいということで、市民参画会議にご参加いただいた方の中から、渡辺様に総合計画審議会にご参加いただいております。渡辺様どうぞよろしくお願い致します。

それでは、議事の進行を野田会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(野田会長)

野田でございます。皆様、こんにちは。

今日も、前回と同じように活発にご議論いただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

最初に、毎回会議の会議録を確認していただく委員さんを順番に回させていただきますけれども、今回の会議録署名委員につきましては、加藤委員と飯田委員にお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

そうしましたら、今日は2つ議事がありますけれども、その議事の前に、次期まち・ひと・しごと創生総合戦略を含めた第2次総合計画の後期基本計画の策定のながれ、どうやって審議していくのか、そのながれにつきまして、事務局からまずは説明をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

(石附企画政策課主査)

【資料1を説明】

(野田会長)

ありがとうございました。この策定のながれについてですけれども、大きくは今ご説明いただきましたように、まち・ひと・しごと創生総合戦略を包含する形になっているのですね。

今回は、全5回あるうちの2回目の会議で、骨子案まで固めてしまうということですね。それを確認するという事です。

さらには、来月中旬くらいから行われるアンケート、市民満足度調査では指標に関する設問などが入ってきますので、こういった辺りを今日検討して、固めていくということですね。

皆様、こういうながれで行っていくということですが、このながれにつきまして何かご意見等ございますでしょうか。お伺いしたいと思います。どうでしょうか。よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

そうしましたら、このながれにつきまして確認させてもらったということで、異議なしということにさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

そうしたら、いよいよ議事に入ってまいりたいと思っておりますけれども、議事の1つ目、清須市第2次総合計画後期基本計画の骨子案についてということでございます。事務局から説明をお願いいたします。

(石附企画政策課主査)

【資料2及び資料5～8を説明】

(野田会長)

ありがとうございました。今ご説明いただきました骨子案について、今から審議をお願いしたいと思います。

この骨子案、どういう項目でどういう内容なのかということをご説明いただきましたけれども、これが今回認められれば次回の6月の審議会では、6ページにあるようなレイアウトで計画の素案が上がってくるということですね。

ですので、今日この骨子案についてきっちり固めてまいりたいと思います。

1つのポイントは、通常の総合計画とは違って、まち・ひと・しごと創生総合戦略を内包する形になっている。しかも、その総合戦略をまだ並行して検討しているという状況にありますので、その辺りをどう位置づけていくのかという部分がポイントになるかと思います。

それに関しまして、例えば2ページにあるまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標、3つの目標はこれでいいのかどうかとか、あるいは、その3つの目標に基づきながら3ページ以降でそれぞれ数値目標を掲げていますけれども、こういったものについてもそれでいいかどうかということ、きちんとしてご審議いただきたいと思います。

次回以降審議する総合戦略の具体的な評価指標などについても、ご意見があればと思います。どんな観点でも結構でございます。皆様活発にご議論いただきたいと思います。どうでしょうか。山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。まず、お聞きしたいのは、2ページにまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標が3つあります。现阶段で進行中のまち・ひと・しごと創生総合戦略もあって、前回の会議の時にその概要をいただきました。そこには「地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる」という目標をはじめ4つの基本目標があります。これが3つになったということで、3つになった経緯についてご説明していただければありがたいと思います。

何故かという、市民参画会議の議事録を見ますと、3つの基本目標が出てきたのは2回目の会議ですが、3回目の会議ではまたテーマが変わっているとあるものですから、その辺りでどのような形でこの目標になっているのかをお聞かせいただければありがたいです。

(野田会長)

事務局の方から、よろしいでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今、山田委員からご質問いただいた点でございますが、山田委員のおっしゃるとおり、現在は現行の総合戦略も同時に進行しているところでございまして、そこでは基本目標を4つ定めておまして、1つ目が「地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる」、2つ目が「若い世代が子育てしやすいまちをつくる」、3つ目が「シニア世代が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる」、4つ目が「安全・安心で快適に暮らせるまちをつくる」、以上の4つの基本目標の達成を目指して、現行の総合戦略に取り組んでいるところでございます。

それで、なぜ今回は3つにしているのかというところなのですが、前回の総合計画と総合戦略も近い時期に策定を進めていたのですけれども、総合計画の中では7つの政策を定めておきまして、そちらについては、まちが今後どうなっているかということをイメージして、大きな目標として定めているところでございます。

一方、総合戦略の目標でございますが、こちらは人口の動向、こちらを主眼といたしまして、今後清須市がどういう取組をして目標を達成するか、そこに重点を置いているものではあるのですが、現行、総合計画の7つの政策と総合戦略の4つの基本目標が、どちらもこういうまちをつくるというような形になっておきまして、合計11本の柱があるような形でございます。

今後清須市がどういうまちを目指していくのかといった時に、やはり総合計画にある7つのまちづくりが大きな目標でありまして、人口に関する問題というのはその下に位置づけて、人口に関する部分に特化してどういうことをやっていくのか、具体性を持たせていきたいというところが、後期基本計画の策定に当たりまして課題意識を持っていたところでございます。

その中で、現行の総合戦略を踏まえつつ、より長期的な視点で人口に関する動向を見た時に、何が必要で、具体的に何をしていくのかを明確にして、より具体的な取組を進めていきたいという意味で、この3つの基本目標に絞って何をやっていくという意思をはっきりさせる形として、このように置いているところでございます。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。人をどう呼び込むかというような観点で3つ立てているということですね。水谷副会長、何かございますでしょうか。

(水谷副会長)

ありがとうございました。4つのものを3つにぎゅっと練り込んだところがあります。特に市民参画会議で議論したことを総合戦略推進会議の方で報告しつつ、意見をいただきつつ、そして、それをまた市民参画会議の方にフィードバックをして、また推進会議にかけてというやり取りをしました。

その中でも特に推進会議の方からは、この言葉遣いがちょっと分かりにくいとか、細かい点から、また大きな視点でのご意見までいただきましたので、それをまた市民の中で練っていくとこのような形になったというところで、特に市の「強み」を生かして、そして経済効果まで生むという、どこまでいきたいのかというところを明確にするとか、何をやりたいのかという像が描けるような工夫はさせていただいております。

ただ、まだ課題がたくさんございますので、皆様にご議論をいただければと思います。

(野田会長)

山田委員、いかがでしょうか。

(山田委員)

引き続きであるならばというところから、人口動向について増やしていこうということですね、特に若い世代の方を。という中で、資料2の1ページ目の将来人口推計、これは推計ですのでこのような数字になるでしょうとは思いますが、実際は今事務局からお話があったように69,000人いますよと。合併後、かなりの人口増加をしている状況にあると思うのです。それが今までの市の取組があって純増しているのかどうかは分かりませんが、実際に今69,000人いると。その69,000人という数字はここには出てこないということになってしまうのかということが1つあります。

また、3ページ目にあります20歳代から40歳代の将来人口推計、これも推計ですので当然この数字でしかないのですが、左側の住民基本台帳に基づく20歳代から40歳代の人口数という数値目標の基準値として28,557人という数字があって、これは既に右側の表の数字を超えている状態にあるように思われるのですが、そうすると目標値の28,000人というのは、どうなのでしょう。若い世代を呼び込み続けて、さらにその方たちが将来的に住み続けてもらうことを目標にしているのであれば、当然人口は増加していくという目標値になるので、20歳代から40歳代の人口はもっと増えていっていただかないと、状況的には不自然である気さえするのです。将来人口推計に合わせるような目標値の設定の仕方になっていないかというのが、僕の思うところです。

目標値というのはやはり、行き先を示すものなので、より達成できるところに設定したいということは分かりますが、その目標値に向かって何か事業を行っていたり、より人口を増やすという方向性に導くのであれば、もっと強い数字を出してもいいのではないかと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。現時点で人口が69,000人に増えている、これはMRJの関係で社宅が来たということですね。その分ちょっと上がったというのはあるのでしょうかけれども、今お伝えいただいたように、人口推計の趨勢で目標値を設定している部分と、それからこうやって頑張っていきますよという、その効果としての政策人口の加味の部分みたいな、そういう説明はできませんでしょうか。

要するに28,557人がどういう観点から作られたのかということについて、お話をいただけますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

3 ページの右上に 20 歳代から 40 歳代の将来人口推計がございます。こちらは国の機関が出している直近の推計でございますけれども、こちらの推計は 1 ページ目の左側でございます将来人口推計、こちらが市全体の推計でございますが、この内数ということになっております。

そこを見ますと、人口数自体は緩やかに減少ということで、おおむね一定規模が維持されているような状況にはなるのですけれども、その中で 20 歳代から 40 歳代、いわゆる生産年齢人口の部分を見ると、かなり落ちていく傾向になるということが見込まれています。

要はこの人口の中身というのが、高齢化率が 2015 年には 23.1%であったところが、2045 年には 29%、30%にかなり近い数字になるということでございまして、その人口の中身、年齢構成が大きく変わっていくことが想定されるところでございます。

その状況を踏まえまして、山田委員がおっしゃるような高い目標を置くべきだという意見ももっともでございますが、やはり現実的なところを見まして、政策効果によって 20 歳代から 40 歳代の人口規模を維持していきたいというところが現実的に目標としたいところではありまして、当然増えれば良いというところではあるのですけれども、そういう趣旨で目標を設定しているところでございます。

(野田会長)

これは今年の数値の公表で明確なデータが入れば、変わることもあるのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。こちらの左下の基準値でございますが、国勢調査が 5 年に 1 回ということがありますので、毎年度フォローアップをしていくためには、住民基本台帳に基づく人口数、こちらでフォローアップは図っていきたいというところでございまして、右上の推計の数値と差異が生じているというのは、そういった理由もございます。

(野田会長)

例えば右上の推計でいえば 2025 年に 26,000 人弱、これが 2,000 人増えるということを目標にされている、そういうことですね。普通にいけば 26,000 人、修正して 27,000 人弱くらいになるところを、政策を行ったことによる効果として 5～6 年後には 2,000 人くらい増えるという、そういうイメージでよろしいですかね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。加えまして3ページの右上の推計につきましても、今後市で人口推計を行っていく中で、当然こちらも上振れはしてくると思いますので、その推計値と左下の目標値が見合いになってくると思いますので、そこも見つつというところになってくるのかなと考えています。

(野田会長)

要するに考え方としては、普通にしていると落ちていくと。政策を行うことによって現状を維持していくという、そういうスタンスですかね。

山田委員、この点はいかがでしょう。

(山田委員)

目標値を達成しているのであれば、当然そのことによって人口、20歳代から40歳代の人口が減らない、真横に推移していくということになるかとは思いますが、目標を超えて人口が増えていくというようなことにはなかなかかなりづらいということですね。目標値を設定しても、そこに達成しないことの方が多いのではないのでしょうか。であるならば、目標値をもっと上に上げていないと下振れします。そのイメージがないのではないかと思います。目標を達成して、必ず達成できるのであればそれは目標値が低すぎるのです。目標値をしっかり設定して、上振れしていくのであれば目標値を上げていかななくてはいけない。そうでないと、どんどん下振れする結果を導くことになりますので。

この将来推計というのは、今ここで会議をしている計画で、何らという表現はおかしいですが、行政があまり変わらない状態で推移していくのであれば、こういうように下がっていくであろうという予測であるだけですので、これを変えたいと思っているのですから、もっと強く出ないといけないと思います。当然それでも下振れはするわけですので、それでいて結果的に人口が減らないよねという形が達成されればいいのではないのでしょうか。

(水谷副会長)

ありがとうございます。非常に難しいところで、私も悩んだところなので。目標値をどのように設定するか、特に20歳代から40歳代の方々が何人清須市にいらっしゃったら、清須市としてハッピーなのかという、どう考えたらいいかということが分からないというか、悩ましいというか。これは市民の皆様にも聞いても「分からんねえ」みたいな感じで、推進会議の方でも難しいところだったような気がするのですが、例えば2割いたらいいとか、若い方がいきなり増えすぎても、その方がずっと清須市に住んでいらっしゃったら高齢化するわけで、全体として、また長期的な視点で、どれくらいの割合の方がいらっしゃたらいいのか、その辺りで皆様のお知恵をいただけたら非常にありがたいなと思っております。

(野田会長)

一応前提としては、従来の総合計画というのは右肩上がりに目標人口を置くのが普通のやり方だったのですね。それがまさか、日本が人口減少するとは思っていなかったという時代になっているのですけれども、人口が減少しつつある時でもまだ右肩上がりに置いていて、ものすごく批判されたというのがこれまでの計画の作り方だったのですが、じゃあ今度はどうするのかということで、目標を趨勢的に下げるというのもちょっと弱腰すぎると批判されるのですね。

ですので、今回は趨勢的にいくと想定人口が下がっていくところを横ばいで現状維持にまでもっていくということを政策の目標にすると。一応計画期間が 2025 年なので、そんなにすごく先ではないということがあるので、これも本当にできるかどうかという部分は、人によって大分見方が変わってくると思います。全国的に人口が下がる、今もう下がりつつある中で、清須市が全国の趨勢にあまり飲み込まれずに勝てるかどうかという部分は、現状維持ということで目標を設定されたというスタンスですね。

どう見るかということなのですからけれども、どうでしょうか。ここの議論は多いと思うのですけれども。

(山田委員)

先ほどの事務局からのお話ですと、将来人口推計とは違う状態で、現在 69,000 人という数字が出ている。増えているということですよ。であるならば、それに乗らない手はないのではないかとということです。

(野田会長)

そこはもちろん、現状のデータでもう一回修正をしてみるという、これはできるのですかね。上振れしている部分を修正して趨勢を見ていく。恐らく、それを考えてやられているのではないかと考えていたのですが。

(石附企画政策課主査)

そうですね。推計自体も 2015 年が 67,000 人強であった人口が、現時点で 69,000 人を超えているということで、出生の状況ですとか、社会増減の状況を加味しても多分 2020 年には推計値が 69,000 人に近いラインになってくるということは想定されるところであります。

それに伴って 3 ページの数値目標も、今後目指すところは若い世代の人口規模を維持するということで、それを踏まえて置いていくということを考えていますので、今後変わってくる可能性はあるというところでございます。

(野田会長)

全年代の人口で見て、今の時点で1,000人くらい多いという状況ですね。それを20歳代から40歳代でどれだけ多くなっているかというところまではすぐに分からないのですが、仮に例えば3分の1くらいならば、300人~400人くらいという感じですね。現在の目標値がそれを大きく超えているイメージになっているような気もするのですね。

現状が28,557人で、きりの良いところで28,000人にするということが2,000人くらい増やすということになりますので、現状を踏まえて若干引いても多分1,500~1,600人くらい増やすというイメージになるのかなという気はするのですが、この年代を本当に増やせるのかどうかということに疑問を持たれる方もいらっしゃるし、私は正直なところちょっと微妙かなという気はしますね。

山田委員、どうでしょうか。もう1回実際のデータ、年齢の部分をきちんと確認していただいた上で、この数値でいいかどうかというのを再検討いただくということでもよろしいですかね。その上でまたご意見をお聞かせいただければと思いますけれども、そのようなながれでよろしいでしょうか。

(石附企画政策課主査)

はい。今後推計値を基に、推進会議でも検討していくことになりますので、山田委員がおっしゃられた高い目標を目指すべきだということについても一度検討していきたいと考えております。

(野田会長)

ありがとうございます。他にどうでしょうか。どんな観点からでも結構です。高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。よろしく申し上げます。私はまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の委員としてこちらの会議に参加しているという認識でいるのですが、資料を見ておまして、総合計画との役割分担のようところで文章がちょっと理解できなかったのですが、5ページの「7つの政策の実現に向けた37の施策」というところの2つ目の丸なのですが、総合戦略推進会議の方では、政策分野を横断するという言葉はあまりクローズアップされていなかったのですが、「『37の施策』に加えて、施策と同じレベルにおいて、地方創生の観点において政策分野を横断した3つの基本目標を設定します」という、この言葉がちょっとよく分からないのでご説明いただければと思います。

施策と同じレベルであれば、政策の下の分類にくるのかなというような気がするのですが、総合戦略推進会議では、これを横断することを意識しなさいよというこ

となのでしょうか。

そもそも総合戦略の3つの基本目標の取組に関する基本的方向というところを見ていくと、1つ目の「定住する若い世代をふやす」というところだと政策1と政策2しか取り上げていないし、2つ目の「市の『強み』を生かして経済効果を生む」というと政策5、3つ目の「人を育て・つなげて地域を活性化する」というと政策7に関わる辺りしか、基本的方向のところには出てこないような気がするのですが、これを何とか横断的なものを何か発案してもらいたいという趣旨なのかどうかということをお聞かせいただきたいと思います。先ほどの政策と施策との間での位置づけですね。そこを教えてくださいませんか。

(野田会長)

これは5ページに書いてある施策が、それぞれの政策の枠組みの中での位置づけで全部書かれていますので、例えば政策1の一部と政策3の一部、それから政策4の一部、これがまち・ひと・しごと創生総合戦略の方の基本目標①に関係しますよというようなことが明確になっていれば、もっと分かりやすいですね。

その辺りは私も思っているのですね。政策をまたぐというのは、単純に政策の枠組みに収まらずに、この施策とこの施策は基本目標のこれに該当しているという、そういうイメージだなと思ってはいるのですけれども、それは作れますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。2ページを見ていただきまして、右上に相関図がございます。こちらは個別の事業が入ってくれば分かりやすいのかなと思いますけれども、3回目以降の会議では総合戦略の中身の方で、総合計画だとこの施策に位置づけられるよとか、そういう形で表示していきたいと思っておりますので、その辺りでもう少し具体の事業が入ってくれば、少し整理した形でお見せできるかなと思っています。

例えば例示をしますと、総合戦略の基本目標①にございます「定住する若い世代をふやす」でございますが、5ページの37の施策でいきますと、施策201の母子保健の充実ですとか、あとは施策202の子育て支援の充実、施策203の学校教育の充実、この辺りのところが入ってきたり、あとは若い世代に向けた防災情報の発信ということで施策102の防災・減災対策の推進ですとか、そのような施策がクロスした基本目標になっているところでございます。

ですので、3ページにございます基本目標①、この具体的な取組と重要業績評価指標は第3回の審議会以降で具体的な内容をお示ししていくことになっていきますが、この中にどういう事業が入っていて、どの施策と関連するか、これをお示ししていきたいと考えているところでございます。

(野田会長)

ありがとうございます。これはこの施策だけ関連するとかいうことを明確にするのが難しい部分がありまして、基本目標同士が重なり合っていますので、例えば基本目標②の経済効果を生むというのが事業所を増やすという話だということは確実に分かるのですが、若い世代を増やす背景には雇用のことがあるという話になると、同じ施策に関わっていたりもしますので、非常に難しい部分はあるのですが、できる限り何に関係しているのかということを示していただくということで宿題としてお願いしたいと思います。

他にいかがでしょうか。加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

加藤です。今のお話でいくと、基本目標は分野横断的にやっていますね。行政というのは縦割りです。横のつながりをどうやって作っていくのか、プロジェクトチームみたいなものを作って、そこが責任を持ってやっていくのか、その辺りもはっきりさせてほしいと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。これはあくまで政策や施策、実施しているプロジェクトの話だけですので、それを実施する体制としてセクショナリズムのような縦割り行政を解消するような形で、現時点で考えていることがもしあればお願いします。

(石附企画政策課主査)

加藤委員からご意見いただいた点は、すごく大事な部分だと思っていまして、例えば先ほどご説明いたしました3ページの基本目標①の具体的な取組がここに並んだとしても、そこに入ってくる内容は何々課が所管であるというような形にはなってくるところでございますが、そこを横断的に見て、基本目標に対して何が必要かといったことなどを議論する場は何かしら必要ではないかというのは加藤委員のおっしゃるとおりでございます。現在は企画政策課が総合戦略の担当課として全体の調整はしているところですが、今後何かしら考えていかないといけないということは認識しているところでございます。

(野田会長)

これは今回の件だけではなくて、全般にわたる話でございますので、しっかりとお願いいたします。

(加藤委員)

行政改革の方にも関わる話だと思いますので、よろしくをお願いします。

(野田会長)

極めて重要な、一般的な課題ではあると思いますので、しっかりのご検討いただいて推進していく、その成果がこの評価にもなってきますので、ご検討いただけたらと思います。

他にどうでしょうか。こういう枠組み、骨子ですね。それから指標とか目標について、どうでしょうか。今日枠組みをこれで認めていただければ次は計画の形になっていきますので、ご意見があれば今日の会議でご発言いただければと思います。何でも結構です。

そうしましたら、まずこの枠組み、項目立てはどうでしょうか。こういう形でもよろしいですか。大枠はそんなにおかしい部分はないのかなという気はしています。ただ、今高山委員がおっしゃったように、どうつながるのかということが更に明瞭になれば、もっと分かりやすくなるのかなと思いますけれども、項目立てはよろしいですかね。

それから、5ページに例えば政策と施策があって、これは基本的には前期で作ったものをベースにしていきたいということで、私もそれはそういうことでよろしいかなと思います。これもよろしいですかね。一部斎場の整備のところだけ、運営を加えますけれども、よろしいですかね。

あとは基本目標が4つから3つになった経緯をお伝えいただきましたけれども、その中身であるとか、それぞれの指標値などについてもどうでしょうか。

質問でも結構です。よろしいですかね。大体ちょうど時間くらいにはなったのですけれども、もし何かあれば。

それでは、後期基本計画の骨子案について、いくつか明確にすべき部分はございますけれども、それを踏まえて今回の骨子案、事務局案をベースにするということでもよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

ありがとうございます。

そうしましたら、これでご承認いただいたということで進めてまいりたいと思います。次回は、具体的な計画案、素案になりますので、さらに色々と注文していただければなと思います。

3 議事(2) 清須市第2次総合計画 後期基本計画の施策の方向性について

(野田会長)

そうしましたら議事の2つ目、これもまた非常に複雑で、ややこしい話ではあるのですが、後期基本計画の施策の方向性の検討につきまして、事務局から説

明をお願いいたします。

(石附企画政策課主査)

【資料3、4を説明】

(野田会長)

ありがとうございました。もう1回、今説明していただいたものを復唱しておきたいと思いますが、資料3については、第2次総合計画の取組状況と施策の方向性についてまとめていただいているということですね。これは資料2の5ページにある37の施策、この施策ごとに施策101から並べて書かれているということですね。これについては、第2次総合計画が開始して以降、きっちりと評価指標を取ってきておりますので、取れる部分についてはその達成度指標に基づきながら、取組状況を丸とか三角とか、1つだけ二重丸がありますけれども、そういった評価を行っている。それと併せて、その結果を踏まえた施策の今後の方向性の文章が真ん中辺りにそれぞれ書かれているということですね。

ご確認いただきたいのは、施策の方向性がこういう内容でいいかどうか、それから指標値についてこういう分析でいいのか、もしくは今後計画に追加される、追加予定と書かれている達成度指標の内容がこれでいいかどうかということです。

とりわけ満足度調査で数値をとっていく達成度指標については、2月中旬にアンケートを実施してしまいますので、今日きっちりとこれでいいかということもお聞きしたいということでございます。どんな観点からでも結構です。ご意見をお願いいたします。高山委員、お願いします。

(高山委員)

たびたびすみません、高山でございます。

素朴なことで教えていただきたいのですけれども、施策101の治水対策の推進の今後の方向性というところでお聞きしたいのですけれども、東海豪雨の後、川底を掘り下げることがやっていたけれども、あれ以降余り見かけたことがないのですが、あれは1回やればいいものなののでしょうか。満足度調査でも、そういう目に付くところはやはり表現されてくるのかなという気がするので、ちょっと素朴な疑問で、そもそもあれは1回やっておけばいいのか、継続して今もやってみえるのか、その辺りをお聞かせいただければと思います。

(野田会長)

どうでしょうか、事務局の方で把握できている情報はありますでしょうか。川底を掘り下げていくというような整備を東海豪雨の直後にやられたと。それがその時に1回やればいいのか、定期的にやるものなのか、すぐには分からないかもしれま

せんが、もし分かりましたらお願いします。

(石附企画政策課主査)

今の高山委員からのご質問ですけれども、新川の浚渫ですね。総合計画は基本的には市の取組という部分で、河川の浚渫は基本的に県とか国という部分にはなってきました、今の詳しい状況は把握していないところでございます。

確かにそういったところで、市がやっていることが見えなくて、それに対してどうかというのが市民満足度調査の結果にも表れてくる部分はあると思います。そこが市民満足度調査の難しい部分ではありまして、資料3にありますとおり、施策の展開において今こういうことを市ではやっています、こういう姿を目指していますという情報提供はさせていただくのですけれども、例えば河川の話であったり、国や県が絡むような話ですね、例えば大きなものでいいますと社会保障制度、施策305の医療保険・年金制度の適正運営ですとか、国に引っ張られるという部分がありまして、市がこういう取組をやっていますといっても、やはり国の状況を感じて満足していないとか、そういう回答が出てくるということもありますので、ちょっとそこは難しいところではあります。

すみません、余りお答えになっていないかもしれないですけれども、河川の浚渫については、今の詳しい状況は把握していないところでございます。

(野田会長)

役割分担の関係上、市に関わるものをメインに書いていただいているということですね。市民がその細かいものを理解して評価するということは、普通は考えにくい部分でございますので、満足度との関わりというのは、そのまま見た目とか肌感覚とかでされているということになるかと思えます。

どうでしょうか、他に何でも結構です。渡辺康子委員、お願いします。

(渡辺(康)委員)

渡辺です。私は市民参画会議の方から参加させていただいておりますけれども、その場では仕事という部分で皆さんと随分色々なお話をさせていただきました。

その中でのお話や、これまでの行政の取組、清須市内での事業所などの数をこれから増やしたいというようなお話を踏まえると、ちょっと対策はまだ弱いのではないかというような感じも受けるのですけれども、今後何か対策はあるのでしょうか。

(野田会長)

活力に関わる部分ですね。実際に事業所を増やしていくとか、新規事業を増やすという部分ですけれども、それに関して何か動きがあるかどうか、また何か具体的

な対策はございますでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今渡辺委員からいただいたご意見ですけれども、事業所数に関わるような部分につきましては、資料3ですと10ページにございます施策502ですね。こちらが主な施策というところにはなってきましたけれども、現状どうしているかといいますと、商工会さんとの連携が中心となってきますが、商工会さんと連携しながら、創業件数を増やしていこうですとか、そういう取組をやっているところがございます。それに加えて、市から直接という部分では、高度先端産業立地の推進ですとか、企業の再投資への支援、あとは資金融資制度の利用促進というところで金銭的な支援も行っているところがございます。

それに加えて、先ほど総合戦略の3つの基本目標の中で、地域の「強み」を生かして経済効果を生んでいこうという基本目標がございましたけれども、こちらでも施策502の取組に加えて、資料3の9ページをご覧くださいますと施策501の観光の振興という施策があるのですけれども、観光分野、清洲城ですとか県の貝殻山貝塚資料館、そういった資源を生かしながら、あとは政策4のように便利で快適なまちをつくっていくというところで、名古屋駅との至近性などを生かして、事業所の創業件数などを増やしていきたいという方向性で考えているところがございます。

今後商工会さんなどにより連携をしながら、様々な方法で創業件数を増やしていくという取組を推進していきたいと考えております。

(野田会長)

渡辺委員、どうでしょうか。

(渡辺(康)委員)

ありがとうございます。私も商売をやっておりますが、この清須市は観光ですとか、産業ですとか、それから農業ですとか、そういったものを連携してやっていくことがまちの発展に確実に必要になると思います。

縦で割っていただくだけではなくて、横でのつながりで色々なものを考えていった方が良いのではないかと思いますので、そういった意味でも連携などをしていただけると良いのではないかと個人的に思っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

(野田会長)

ありがとうございます。異業種、若干地域間の交流や連携がそれに該当するものがあるのかどうか微妙なところはありますけれども、企業間の連携とか、色々な商

品の開発に関して調査していただくということですね。ご検討いただきたいと思います。他にどうでしょうか。水谷副会長、お願いします。

(水谷副会長)

ぜひ皆様にお聞きしたいことなのですけれども、基本目標③で「人を育て・つなげて地域を活性化する」というものがございます。この観点から、どのような施策や取組、今後の事業を強化していったらいいのか、またここに色々挙げられておりますが、足りないものもあると思いますので、本日ご意見をいただけると今後につながるかなと思っております。「人を育て・つなげて地域を活性化する」という観点から、ここを注力すべきだ、またこういう事業をすべきだということでご意見をいただけると助かります。

(石附企画政策課主査)

今の水谷副会長のご提案ですけれども、1つ事務局から、例えば施策102の防災・減災対策の推進という中で、地域防災リーダーの育成ということはこの分野では重点的にやっていきたいというところがございますし、資料を1枚はねていただきまして、施策201ですと母子保健推進員数、こういう指標があるのですけれども、こういう方たちを育成することで、より地域で母子保健の身近な相談役となる方を育成していきたいですとか、そういった「人を育て・つなげる」という部分で現状やっている部分はあって、それに加えてというところをお願いできればと思います。

(野田会長)

皆様どうでしょうか。渡辺康子委員、お願いします。

(渡辺(康)委員)

渡辺です。「人を育てる」というところで、子どもさんを育てていくという観点もありますが、私たちのように職人の世界になりますと、後継者を育てるということもとても大事な話になります。個人的にマイスターという制度で、子どもさんたちに職人の仕事を体験していただいて紹介をするという取組もやっております。そういった部分で、市内でこのまま事業をやめてしまう、そういったお店が少しでも減るような、市にある資源を市で紹介していくとか、新しい後継者を血筋ではなくても育てていくというような、そういった観点や活動もあってもいいのではないかと思います。それは農業にも言えることではないかなと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。これは、例えば資料3の10ページのどこかに、事業として該当しそうなところは事務局、ありますでしょうか。資金融資とか創業者支

援という話ですけれども、農業に関しては農業体験と書かれていますが、農業以外でそういうことをやっているわけではないわけですね。

ちょっと考えてもらってもよろしいですかね。施策の展開に含まれない可能性も出てくるので、含めることができるかどうかということも考えていただいてということで、ご検討いただければと思います。

他にどうでしょうか。高山委員、お願いします。

(高山委員)

度々すみません。高山でございます。非常に細かいことなのですが、人と人をつなげることになるのかどうかはちょっと分かりませんが、例えば2ページの施策104、施策の展開の5番に応急手当技能の普及という項目があります。自分が住んでいるところの近所のどこにAEDがあるのかとか、AEDの使い方の訓練はしたことがあるのですけれども、自分の近所で何かあった時に、近所のどこにAEDが置いてあるのか分からないのですよね。AEDよりは置いてある件数も多いのかもしれないのですが、上の2番辺りでは消火器がどこに置いてあるのかとか、そんなところが分かると良いなという気はしています。

あとは人とのつながりでいうと、今日は観光協会の会長もみえるのですけれども、9ページの施策501ですね。こういったところも今朝の朝刊で安倍総理の国会の最初の演説でも、地方創生ですか、そんなところの項目の中に観光立国というのがちょっと出ておりましたけれども、人を呼ぼう呼ぼうとすることばかりというか、まず地元にいる市民が興味を持たないと、それによって結果として外部から人が集まってくるという考えを取った方が良いのかなと個人的には思っております。余談ですけれども付け加えさせていただきます。

(野田会長)

2つ目の方は確実にそうですね。9ページの施策501、施策の展開の4つ目、観光等を担う地域人材という言い方をしているので、地域で人を育てて、数につなげていくという、今の高山委員のお話を含めることができる施策の展開かなという気がします。

1つ目の方は、個別の事業の話になっていくと思うのですけれども、2ページにある非常備消防力の確保、応急手当技能の普及の中の事業でこれをきっちりやっていくという話になるかなと思うのですが、それをやっていくに当たって、地域の人をどう育てていくのかといった話は、これは自治会とか自治消防とかがいかに強いのかという話になっていくのかなという気はするのですけれども、その点については齋藤委員、どうでしょうか。ご経験からどういう施策、水谷副会長が言われている、ちょっと複雑で難しいのですけれども、基本目標③「人を育て・つなげて地域を活性化する」というところにつながるとお考えでしょうか。

例えば1ページの施策102、自主防災活動への参加者数、これは事務局からお伝えいただきましたがその上の地域防災リーダー数、こういったことも関係してくるのではないかなと思いますけれども、齋藤委員のご経験からしてどう思われますか。

(齋藤委員)

地域防災リーダーというのは年々増えておりまして、各自治会で率先して皆様方やっていただいておりますのですけれども、例えば年に何回か、防災訓練とか色々なことをやるのですけれども、年々それに出てみえる方はもう決まってしまうているのですよね。若い世代の方がなかなか参加されないものですから。

消防団としても、いかにして皆様に参加していただいて、防災訓練なり自治会の消防活動なりをやっていただけるかということで、今考えている最中です。

消防団といたしましても、顔が見える近所付き合い、消防団が地域を支え、地域の方が消防団を育てるといような体制を今3年ばかりでやっておるのですけれども、なかなか若い人の参加というのが本当に困っている状態です。

確かにリーダー的な人は随分増えました。それでも、それは一部に限られてしまって、若い世代の夫婦で子どもが小さい場合もあるので、子どもさんを対象にして色々な防災訓練もやっているのですけれども、なかなか集まりが悪いものですから、それを課題としております。

(野田会長)

そういった現状も踏まえながら、どの施策が人を育て、最終的に地域の活性化につながっていくのかということも、事務局を含めご検討いただければと思います。

他にはどうですか。加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

加藤です。観光の方からちょっとお話いたしますけれども、総合戦略の基本目標②の文章の中に「豊富な歴史資源・観光資源」と書いてございますが、私から言わせれば清須市にはありません。あるのは小さなもの、小間切れのものしかないのです。それをいかにしてつないで、魅力あるストーリーにしていくか、そのところを悩んでいる最中なのです。

小さなグループがいくつかございます。それぞれが一生懸命やっているのですけれども、もう賞味期限切れみたいなものです。摩耗してしまっていて、ネタも枯れてきてしまっています。

それでどうやって人を集めたら良いのかというと、皆様からは食べるところがない、休むところがないと言われますけれども、そういう商売をやっている方は生計を立てております。その生計が成り立たないことには、商売を続けてもらえません。

それを無理やり市の方から、あるいは観光協会から頼むといっても無理なのです。

私どもとしては、とにかく何が何でも人を集めて、人がたくさん来るから商売人の方も店を出そうかという、そういう考え方になってもらう、そういう方向を目指しているのですけれども、なかなかその良い案が出てこないのですよね。

資料にある市民参画会議では、非常に良い意見が多く入っています。横の横断の問題です。先ほども言いましたけれども、役所というのは縦割りです。予算も縦割りです。僕は今度、横のつながりをもっていった時に、どういう予算割りをしてくれるか、それが見物だなと思っているわけです。それによってもう少し、市民の人たちもやろうという気になってくれるのではないかなと思います。

先ほど消防団の齊藤委員も言っておられましたけれども、人が集まらないのです。若い人が来ないのです。それをどうやってもっていったらいいのか、そこが一番悩ましいところです。

(野田会長)

ありがとうございます。今お話いただいている内容であるとか、齋藤委員がお話になられた内容というのは、基本的には指標云々というよりは施策の方向性に関わる話だと思いますので、該当するところをもう1回、今の意見を踏まえて修文できる部分があればということですね。

事実上、この指標にいくまでに、中の組織として皆がどういうふうに動くかということ想定しながら書いていただくということですね。

他にどうでしょうか。地域福祉とかの観点で社会福祉協議会さんですとか、その他の観点を踏まえて、人を育てて地域の活力につなげていくということで、何か思うところがございましたらお願いします。加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

もう1つだけお願いします。横の横断になりますけれども、例えば緊急車両が走る、そうすると路上駐車が非常に多いのです。それを何とかしてくれと、そういう話になると警察の問題だといってぼんと切られてしまうのですよね。そういう横のつながりというものを、もう少し大事にしてほしいと思います。

あとはこの中を見ますと、地域ぐるみとか、人と横断的にやるということで、私自身が人とつき合っていくのが苦手な方で、職人なものでなかなかうまくいかないのです。それをどうやって対応策を作っていくのかな、またそれを作るのに手助けできるのかなという、この辺りが非常に問題ですね。

(野田会長)

ありがとうございます。政府レベルとは違って、市民にとって同じ行政サービスに感じ取ってしまいますので、完全に県警とかの権限にはなるのでしようけれど

も、情報連携等はきっちりとやっていただければなと思います。

他はどうでしょうか。先ほどの基本目標③以外でも何でも結構でございます。

渡辺玲子委員、お願いします。

(渡辺(玲)委員)

渡辺です。よろしくお願いいたします。私は障害の子どもを持っております関係で、どうしても障害の方に目が行ってしまうのですが、5ページに障害者支援施設の運営等への支援という項目が挙がっております。

清須市は支援施設が本当に少ないなとは思っております。それはスタッフ、人材の問題があって、働いてくださるヘルパーさんとか職員がすごく少なくて、何か作ろうと思うと「誰か働いてくれる人がいるの?」ということをよく聞くので、そういう養成、ここでは手話奉仕員養成講座の受講者とか、そういうのは挙がっておりますけれども、そういうことも挙げていただくと良いのではないかなと思っております。

大学では介護福祉士とか色々なそういう勉強をしてみえる方がいると思うのですが、なかなか実際に働くところにつながらない方がすごく多いので、それをいかに福祉の現場へもっていくという大変ですけども、働いていただけると非常に助かるなと思っております。今本当に職員が少なくて、四苦八苦しているところが多く多いので、その辺りのことを考えていただけるとありがたいかなと思っております。

(野田会長)

指標自体は特に問題はないということですね。要は今後の方向性みたいなところで、人材をちゃんと地域に根付かせてほしいということですね。

(渡辺(玲)委員)

はい。

(野田会長)

分かりました。他にどうでしょうか。浅田委員、お願いします。

(浅田委員)

浅田と申します。よろしくお願いします。

「安全で安心に暮らせるまちをつくる」の政策の施策103の中で、見守りカメラの設置支援という項目がありますが、とてもやっていただきたいと思っているのです。街灯をLEDにしてもらって明るくなったというのはあるのですが、まだまだ暗い場所があったり、子どもたちも夜遅くなったりすることがあります。

し、皆が皆、親が習い事の送り迎えができる家庭ではなくて、できない家庭もありますので、見守りカメラの設置支援はやっていただきたいと思います。

あとは不審者情報ですが、保育園、小学校、中学校では不審者情報が親の方にメールで送られてくるのですけれども、それ以上の高校、大学に通う子どもの場合、うちはまだ中学生なのでどうなっているのか分からないのですけれども、年齢が上がっていく子どもの方が帰る時間や出ていく時間が早かったり遅かったりするのです、その対策もやっていただきたいなと思っております。

それと施策 404 の公園・緑地の整備・管理という項目ですけれども、どこの公園も大体遊具はきれいにはなってきたのですが、遊具が低年齢化し過ぎて、小学校の中学年、高学年が余り遊具で遊べないような状態になってきているのですね。未就園の小さい子にとってはとても良いことだと思うのですけれども、小学生が友達同士で遊びたいといっても、下手すれば公園でボール遊びもできない、大きな声で騒ぐな、遊ぶ場所がどんどん減っていつているのですね。そこもどうかしていただきたいと思います。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。1つ目の施策 103 に関わるところは、ある程度この施策の方向性の中で書いていただいていると思いますが、特に不審者情報に関わるような話も、対象者に関しては小学生くらいまでは一応情報として携帯電話とかにくるわけですね。ただ、高校とか大学というと確かに余り聞いたことがないので、1回そういったものがどういうふうにならぬのかということ調べていただいて、修正できるようであればご検討いただければと思います。

2つ目の公園に関する話は、確かにこの 10 年、20 年くらい、ボールで遊んでは駄目とか結構書いてある公園が普通になってきていて、私も変だなとは思っています。清須市内の公園でも、小学生が普通に遊べないところが結構多いというイメージですかね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。多分公園の広さにもよると思うのですが、今浅田委員が言われたことは、担当としてはバランスを考えてやっているとは思っているのですが、今いただいたご意見を踏まえて、もう少しそういう観点からも考えていく必要があるのかなと思っております。

(野田会長)

公園は小さい子の公園というだけの位置づけではないので、一応市民全体の人たちから見て、もう 1 回、再度ご検討いただければと思います。他にどうでしょうか。山田委員、お願いします。

(山田委員)

施策 502 の商業・工業の振興の達成度指標の 4 つ目に、創業支援事業による創業件数という指標があります。これは北名古屋市さん、豊山町さんの窓口を含むということになっているものですから、清須市単独で数字が出せるのでしたら出していただければ良いのではないかと思います。そうすると小さくなるので、見た目よくないのかもしれませんが、清須市でどうかということもやっていただきたいと思います。

それと、施策の評価と今後の方向性の中の「商工会との連携を図りながら」という、この 1 行にも満たないところなのですが、ここにかなりの部分、お願いしている部分があるかと思しますので、具体的なものが書けるのであれば書いていただきたい。それと同時に、商工会からのそういう事業のフィードバックを市の方に上げられることができれば良いのではないかと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。創業支援事業、これは清須市のデータは取れないのでしょうか。

(石附企画政策課主査)

清須市の窓口の創業件数も取れるのですけれども、北名古屋市と豊山町等の窓口を含むというのは、広域で国の創業支援事業計画という計画の認定を受けておまして、計画に基づいて、広域でこの水準を目指していこうという取組を進めていますので、それを踏まえてこのような形で指標を置いているところです。

(野田会長)

ということは、その計画との整合性を含めて、当然この 2 市 1 町は連携するということですね。連携して、その成果が創業件数で評価されてしまうので、こういう指標にしている。ただ一方で、清須市のデータも取れることは取れると思いますので、それは見ることができる状態にしておいてほしいなというのはありますね。結局、清須市はどれだけなのかというのはやはり一番関心がありますので、計画の中に載せるかどうかは別としてですね。

それともう 1 つは、商工会との連携を図りながらというところに、具体的なことが書ければということなのですが、書けそうですかね。確かに商工会さんに間に入っただきながら支援をするという事業がたくさんありますので、結局それがどう機能して、どういうふうにつながっているのかということまで我々としては知りたいと思いますので、ここは何か書けそうな部分がもしあればご検討いただければと思います。もしそれが十分でないということが確認できるのであれば、

違うルートで創業支援を行うということも、今後課題になってくるのかなという気はしますので、まずは現状を把握したいということですね。

他にどうでしょうか。水谷副会長、お願いします。

(水谷副会長)

先ほど浅田委員から不審者情報を高校生、大学生についても発信していったらどうかというお話があったのですが、13 ページの施策 702 の施策の展開の1つ目に「市民が必要とする情報の積極的な発信」という項目がございます。ぜひ防犯と情報発信を絡めてはどうかというふうに思います。先ほどの担当課を超えてということですね。これは大事なのではないのでしょうか。

情報発信、非常に市民から期待されていると思っております、同じ施策 702 の達成度指標の2つ目、「広報清須の紙面が読みやすいと思う市民の割合」とかなり具体的にお聞きしているのですが、ここを例えば「市は市民が必要としている情報を提供していると思うかどうか」というような項目に変えてはどうかという提案ですけれども、「広報清須」はもしかしたら見る人は限られているかもしれない、それよりももう少し、必要とする情報が発信できているかどうかという確認をしてはどうかと思いますけれども、いかがでしょうか。

(野田会長)

特に2つ目ですね。これは特に広報紙との関係で聞いているイメージなのですが、もっと全般を通じて、少し抽象度は上がりますけれども、市民が必要としている情報を清須市が発信していると思う割合みたいな話ですね。そのツールとしては広報紙であったり、ホームページであったり、多くはホームページになるのかもしれませんが、その背景にあるのは、広報紙を読んでいない可能性が高いからという、そういうイメージなのですかね。

これは事務局さんとしては、広報紙にこだわる理由というのは、広報紙の活動というものが主要な媒体になってくるからという、そういうイメージですかね。

(石附企画政策課主査)

今会長がおっしゃるとおりでございます、ここが柱にはなってくるところなのですが、施策 702 はほぼどの施策にも関わってくる部分があると思いますので、市が必要な情報を発信できているかどうかというのは、よりアウトカムというか、施策の効果が出ているのかという部分を測れる指標ではないかと思っておりますので、新たに指標を加えていくことは可能かなと思っております。

(野田会長)

すみません、指標の1つ目の「市民満足度調査における満足度」がそもそもそれ

に該当するのでしょうか。市民が必要とする情報、今の現状でどうですかということ
で満足状況を聞くというわけですから、おおむねかぶっているといえればかぶって
いますね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。そうとも言えると思います。

(野田会長)

そこで聞くとした場合に、特に2番目は広報紙をとということで聞いているという
イメージになるわけですけれども、水谷副会長、どうでしょうか。

(水谷副会長)

ありがとうございます。これは多分、質問の数を増やしたいけれども増やせない
というか、なるべく限られた中でということだと思いますので、増やせるなら増や
していただき、減らすなら1番、2番のどちらでも結構かと思います。

大事なことは、必要とする情報、先ほど広報紙とかホームページというお話があ
りましたが、市民参画会議ではツイッターとか、不審者情報はメールですので、色々
なメディアがあるかと思しますので、ここは何らかの工夫をいただけると、具体的
に必要な情報をとっていただけるのかなと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。まず検討をお願いできればと思います。

他にどうでしょうか。何でも結構です。一応今日、この達成度指標は完全に決め
てしまって、アンケート出してしまいますので、何かあれば今のうちにご意見をい
ただければと思いますがどうでしょうか。

よろしいでしょうか。本日は色々なご意見をいただきました。次の審議会で検討
いただくべき内容のものも含まれていました。事務局におかれましては、今回いた
だきました、特に施策の方向性に関わるご意見もたくさんございましたので、そう
いったご意見を踏まえて、後期基本計画の素案の作成を進めていただきたいと思います。

また達成度指標ですが、市民満足度調査の結果を使用する新たな指標、こういう
指標について、事務局案のとおりで進めたいと思いますけれども、よろしいでしょ
うか。

「異議なし」の声

ありがとうございます。異議なしということで進めたいと思います。

そうしましたら、以上で2つの大きな議事は終了ということになりますけれども、最後にもし皆様の方からご意見とかご質問等がございましたら、どんな観点でも結構でございますので、お伝えいただければと思います。何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

よろしいですかね。ありがとうございました。

そうしましたら、以上をもちまして第2回 清須市総合計画審議会を終了したいと思います。

皆様どうもありがとうございました。

最後に事務局から、今後の事務連絡等をお願いいたします。

4 閉会

(河口企画部次長兼企画政策課長)

皆様どうもありがとうございました。

本日皆様からいただきましたご意見につきましては、そういった色々なご意見を踏まえまして、来月には市民満足度調査を実施し、後期基本計画案の策定につきましては随時進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

なお、次回の第3回の総合計画審議会につきましては、平成31年6月の開催予定としております。詳細につきましては改めてお知らせさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は、長時間にわたりご審議を賜りましてありがとうございました。

以上で終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 電話 052-400-2911 (内線3251)
--------	---------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 加藤 康夫

署名委員 飯田 孝